

在グアテマラ日本大使 川原英一(御挨拶)

平成 25 年度 JICA 地域別研修
「中米・地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」コース
アクション・プラン発表会

2013 年 11 月 5 日 15 時 30 分～
於 グアテマラ国立考古学・民俗学博物館



本日の発表会にお招き頂き、大変嬉しく存じます。グアテマラのティカル遺跡はマヤ文明を代表する遺跡の一つであり、年間 20 万人を超える観光客が訪れる観光地になっておりま

す。しかしながら、ティカル国立公園には文化財の保存・修復、並びに研究活動を行うための施設が十分に整備されていない状況です。

昨年7月、日本政府は、グアテマラ政府の要請を受けて、同国立公園にティカル遺跡の保存、修復、研究を目的としたセンターを供与致しました。

それぞれの国が持つ歴史・文化遺産を適切に修復・保存し、後世にその魅力を伝えていくことは非常に重要と考えます。

また、ハード面だけではなく、文化遺産保護に関わる人材・組織を技術的に支援することも重要と考えます。

今回の JICA 研修では、グアテマラに限らずホンジュラス、エル・サルバドルから研修員が参加し、文化遺産の保存と活用法、地域と自然との調和的発展のための方策等についての研修が実施されています。 本日は、グアテマラはじめとする、これら 3 カ国での行動計画が発表されると承知しています。各国が持つ現状や課題、好事例(グッド・プラクティス)等の情報共有、意見交換は、将来のマヤ文明圏における関係国の相互協力関係を構築させていく上でも非常に重要です。



今回の研修成果が、3 か国において最大限活用され、貴重な文化・歴史遺産の適切な管理・運営や地域住民の生活向上に資する観光・地域開発に役立つことを期待しております。

また、ティカル保存研究センターが中米地域のマヤ遺跡の保存・研究の中心として、今後も引続き活動できるよう、センターの運営面でのグアテマラ政府の貢献を強く期待しています。

最後に、今回の JICA 研修プロジェクトの実現のために大きな貢献をされた中村教授及び金沢大学関係者に対して、深く感謝を申し上げます。(了)